

# 和泉そぞろ

Izumisozoro

## ① パティスリー プラリンチュ

チョコレートの本場であるベルギーで修行したパティシエールが作る本格スイーツが人気のお店です。

## ② はつが野テラス

青果にしだが運営するカフェです。旬の果物をたくさん使ったお料理やスイーツを提供しています。

## ③ 館焚き屋 中井

九条（大阪市）にあった鶴屋鷹山という和菓子屋が、2005年に泉北高島屋店に移り、その後、2015年に現在地に店舗を構えました。毎日、店内の厨房で小豆からあんこを炊いて和菓子を作っています。

## ④ ANTIQUA TREE CAFE アンティカ ツリー カフェ

2017年11月にオープンしました。ANTIQUA がセレクトした洋服や雑貨がずらりと並ぶセレクトショップ（1階）と、本格イタリアンシェフによるお料理やスイーツが楽しめるカフェレストラン（2階）の複合店舗です。

## ⑤ 和泉市立南松尾はつが野学園

2017年、和泉市初となる施設一体型・小中一貫教育を行う義務教育学校として開校しました。

## ⑥ 春日神社

江戸時代は藤原氏の氏神である四所明神が松尾寺の鎮守神として祀られていましたが、明治の神仏分離によって切り離されて松尾寺村の村社となりました。松尾寺町の隣の春木町にも南北松尾総氏神・春日神社がありますが、かつては松尾一帯は春木荘と称し、春日大社の荘園でした。春日神社はその名残といえます。

## 『日本往生極楽記』『今昔物語』に登場する松尾寺

河内国河内郡の人である沙弥・尋祐は出家したのち松尾寺に移住しましたが、常日頃から阿弥陀仏を唱え続けて、文字通り念仏三昧の日々を暮らしていました。ある年の正月の真夜中、老いた尋祐が念仏を唱えていると、大いなる光明が山中で煌煌と輝き、不思議な奇瑞を示すと共に尋祐は見事に極楽往生を果たした…といった話が『日本往生極楽記』『今昔物語』などに記載されています。平安時代に、すでに都の人々にも松尾寺の存在が知られていたことがわかります。

## 樹齢700年！松尾寺の大楠は知っている ～義経ゆかりの首堂から信長の松尾寺攻めまで～



## はつが野

平成4年（1992）、和泉市中部にある北池田・南池田・北松尾・南松尾地区の丘陵をUR都市機構（都市再生機構）が開発してできたのがトリヴェール和泉です。はつが野、いぶき野、まなび野、あゆみ野と計4つのエリアで構成されていますが、はつが野は植物が「発芽」し、花を咲かせて実を結ぶさまをイメージして町名が名付けられました。そのニュータウンの「はつが野」から和泉の古刹・松尾寺まで巡ります。樹齢700年、和泉市内最大の巨木・松尾寺のクスは必見です！

## ⑦ 長論和尚碑

信長が松尾寺を焼き討ちにしたさいに当時81歳の長論和尚はご本尊や百数十点の寺宝の持ち出しに成功して堺の念仏寺へ逃げました。国の重要文化財に指定されている絹本着色孔雀経曼荼羅図、宝篋印陀羅尼經（後亀山天皇宸翰）、如意輪陀羅尼經、現存最古といわれる役行者の画像や府下最古の真言八祖像などが現存しているのは長論のおかげです。長論は松尾寺が信長に滅ぼされる顛末を記した『松尾寺破滅記』なども残っていて、その偉大なる功績を称えて大正3年（1914）に顕彰碑が建立されました。

## ⑧ 松尾寺の首堂

源義経が一ノ谷の戦い（1184）で敗死した平家一門の首を船三艘に積んで四天王寺、湊寺（堺）、松尾寺に送り、それぞれの寺院で菩提を弔ったといわれています。江戸時代に新井白石が記録を残していますが、それには「三間四面計りなるが格好よりは縁高き也、縁の下は悉く觸躰也」とあります。信長の松尾寺攻めでも、この首堂だけが不思議に残っていたといわれています。その後、老朽化でお堂が崩れたので白骨を集めて壺に入れて地中深く埋め、「一ノ谷戦死者之首墓」の石碑を建てたといわれています。

## ⑨ 宝瓶院（行基ゆかりの閻伽井）

松尾寺の塔頭寺院のひとつです。行基ゆかりの井戸・閻伽井があることで知られています。松尾寺は江戸時代には13の塔頭寺院がありましたが、明治初期の神仏分離令（廃仏毀釈）の影響やそれぞれの寺院の事情などもあり、現在では宝瓶院と明王院以外は廃絶しました。

## ⑩ 松尾寺のクス

松尾寺バス停留所の横にあります。ここもかつては松尾寺の旧境内地でクスは推定樹齢700年、樹高38mもあり、和泉市内最大の巨木です。府の天然記念物に指定されています。

## ⑪ 株式会社すてきなじかん本社（辻本珈琲）

明治32年（1899）に初代の辻本棟太郎氏が山で栽培していた蜜柑の木が土砂崩れで失われぬように斜面に茶ノ木を植え、その後、摘んだ茶葉を製茶して堺、大阪市内で量り売りをはじめたといわれています。戦後に3代目が「お茶の辻本園」に改名しましたが、コーヒー事業も始め、2003年に独立して辻本珈琲を創業しました。2017年には当地に実店舗を構えました。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和7年（2025）2月現在のものです。和泉のまち歩きの際にご利用してください。

## 平安貴族たちが遊んだ幻の玉井山荘を求めて

～和気から松尾川を超えて軽部池、小田を巡る～

古代豪族の和気氏が町名の由来という和気は歴史が古く、先史時代の遺跡である和気遺跡なども見つっています。和気から南下して松尾川を渡ると小田地域に入りますが、この小田も軽部池の周辺で遺跡が見つかっていて弥生時代(約2000年前)の集落跡の存在も確認されています。また小田には平安貴族たちが遊んだという玉井山荘の跡地説などもあります。和泉でも有数の歴史を有する集落の和気と小田を巡ってみましょう。

### ⑪松尾川緑道

現在、忠岡町高月あたりで牛滝川と松尾川は合流しますが、かつての松尾川は、その手前で大きく北側(和気側)に湾曲していました。この流れでは氾濫の可能性があるので、まっすぐに流れるように現在のように付け替えられました。旧・松尾川は緑道として整備され、地域住民の散歩や憩いの空間として親しまれています。

### ⑩玉井山荘と藤原為時、大江匡衡

『源氏物語』の作者・紫式部の父として知られる藤原為時(949～1029)は玉井山荘を題材にして『題玉井山荘』という漢詩を残しています。また大江匡衡(952～1012)も玉井山荘に因んだ漢詩を残しています。この大江匡衡の妻が赤染衛門(956?～1041?)で、二人はおしどり夫妻として有名でした。赤染衛門は当代随一の女流歌人で、和泉式部(夫の橘道貞が和泉国守)や紫式部、清少納言らと交流し、息子・大江挙周の和泉守任官に尽力するなど文字通り良妻賢母の鑑でした。こうした平安貴族や女官たちも、もしかしたら玉井山荘を訪れて遊んでいたかも知れません。

### ⑨小田公園(玉井山荘跡?)

『大阪府史蹟名勝天然記念物』によると「和泉市小田部落の西北二丁今田野とされるあたり、是を玉井山荘と称し」とあります。この玉井山荘は和泉国守などが休暇の際に貴族仲間と一緒に宴遊した場所といわれています。また玉の井という名水の井戸があり、それは「村の西北に当れる亀ヶ崎池と称す、周囲4町余の池中にあり」という伝説も記録されています。この亀ヶ崎池が現在の小田公園あたりになりますが、遺跡などは出ていないので確かなことは何一つわかりません。



### ①和気神社(和気児童遊園内)

かつて和気公(和泉の和気氏の先祖)がこのあたりを本貫にしたので、和気の地名がついたといえます。和泉の和気氏は『新撰姓氏録』によると12代景行天皇の息子・倭建命(ヤマトタケル)から分かれた一族といえます。有名な和気清麻呂(733～799)は11代垂仁天皇(ヤマトタケルの祖父)から分かれた一族なので遠い親戚になります。和気の意味は皇族から「わけ」られた一族なので和気氏というようになったという説などがあります。境内に寛保3年(1743)に建立された石燈籠があり、片桐氏光康の名が刻まれています。

### ②妙泉寺

寺伝では歴応2年(1339)に日蓮宗僧侶の大覚大僧正(1297～1364)が開創したといえます。大覚は延文3年(1358)、後光厳天皇の命で雨乞いの祈禱を行い、効験があったので、その功績で宗祖・日蓮に大菩薩の号が贈られて大覚自身は大僧正に任じられました。日蓮上人自作と伝わる尊像があり、「和気の高祖」と呼ばれていますが、参詣者が祈願成就すると筍笠と高下駄を奉納する習わしがあります。いつのまにか高下駄に土がついていて、それは日蓮像が夜中に見回っているせいで、そのおかげで村中では火災や盗難などが起こらないといわれました。

### ③妙泉寺の三好実休墓

三好実休(1527?～1562)の墓が妙泉寺にあります。三好長慶の実弟として三好政権を支えながら四国、畿内各地を転戦しました。永禄3年(1560)には河内守護の畠山高政を打ち破り、一時期は河内国を支配しましたが、勢力を盛り返した高政と和泉・久米田(現・岸和田市)で戦い、敗死しました。享年36歳で、長慶の懐刀で信頼されていた実休の横死は、三好政権の衰退に繋がりました。生前は50種類もの名物茶器を有する数寄大名として知られ、その中には「天下無双の名物」と呼ばれた「三日月茶壺」もありました(のちに信長の手に入り、本能寺で焼失)。千利休を自邸に招いて交流したことが『山上宗二記』などに記されています。また利休の妻・宗恩は、元は能役者・宮王三郎の妻で、この宮王三郎は実休の近習であったという説があります。

### ④府中大寺屋・小田店

大正10年(1921)、黒鳥町にて餅菓子屋「大寺屋」として創業し、昭和28年(1953)に府中町にて府中大寺屋を開店しました。「蜜柑山」は地元・和泉産の蜜柑ペーストを使ってバターケーキに小倉餡を入れた人気和菓子で、「いずみ印」(和泉商工会議所と和泉市による地域ブランド)と「和泉スイーツ」(和泉市)にも認定されています。

### ⑤軽部池

軽部池周辺は、かつては軽部郷といわれ、奈良時代には法隆寺の荘園で、現在でもいまだに条里制(碁盤目状に田畑が整備されている)の痕跡が伺えます。天平19年(747)の『法隆寺伽藍縁起并流記資財帳』に「池 和泉郡軽郷」の記述があり、この池は軽部池のことと推定されています。人工的に造られた約200メートル×約300メートルの長方形の溜池で、貯水量は約12万トンほどです。外堤を守るために池の中に「十」の形の中堤があり、優れた土木技術や知恵を感じます。

### ⑥地福寺・八坂神社

寺伝では寛文2年(1662)創建とあります。戦前の地蔵盆(8月23日、24日)ではお菓子ではなくて煎り豆が供えられていたという記録があります。また西隣にある八坂神社では7月8日から14日に祇園祭が実施され、毎晩、子どもたちの角力大会が実施されていました。

### ⑨泉州の乳牛

明治35年(1902)、泉南郡山直下村三田(現・岸和田市三田町)の農家に大阪都市部の牛乳屋の乳牛が預けられました。その後、乳牛飼育の請負は徐々に増え、昭和4年(1929)には農家有志で三田南農事実行組合・牛乳部が結成され、共同搾乳舎・殺菌室などを設けて本格的な牛乳の独自販売に乗り出します。しかし太平洋戦争の影響で飼料や労働力が枯渇し、敗戦時(1945)には農事組合に乳牛2頭のみという壊滅的状況にまで追いやられました。しかし戦後の食糧難の時代にこそ栄養価の高い牛乳が必須であると関係者は尽力し、和泉酪農業協同組合(現・日本酪農協同株式会社)が誕生します。その後、学校給食法(1954)で給食に牛乳が採用されたことで劇的に復活していききました。

### ⑦毎日牛乳近畿工場(非公開)

昭和23年(1948)、和泉酪農業協同組合(現・日本酪農協同株式会社)が組織されて岸和田市岡山町にて牛乳処理販売事業が開始されました。昭和30年(1955)に商標が「毎日牛乳」となり、昭和44年(1969)に和泉工場(現・近畿工場)が竣工しました。和泉市内の学校給食などではお馴染みの牛乳です。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和7年(2025)1月現在のものです。和泉のまち歩きの際にご利用してください。

■プロデューサー | 陸奥賢(観光家/大阪まち歩き大学学長) ■コーディネーター | 宝楽陸寛(NPO法人SEIN/コミュニティLab所長) ■イラスト&マップ制作 | フジワラトモコ ■協力 | いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生(はっとりまさよ/町田文平/ちょうさん/むらかみあきら/はるパンダ/クワハラ/るんるん)

## テクノステージ和泉から契沖阿闍梨ゆかりの久井へ -国学を揺籃し、和泉最大の産業団地を産んだまち-

国学の祖・契沖（1640～1701）は尼崎で生まれ、出家して高野山で修行し、24歳の若さで阿闍梨の位を得ました。31歳の時に久井村の辻森吉行と出会うと、その才能や人徳が認められ、契沖は久井・辻森家の小庵に寄寓しながら国学の研究に没頭したといいます。名水どころで緑豊かな久井でしたが、戦後、集落西側の丘陵地にできたのがテクノステージ和泉です。平成5年（1993）、阪和自動車道での堺IC-岸和田和泉IC間の開通や平成7年（1995）の泉北高速鉄道による和泉中央駅の開業などが後押しになり、和泉市の産業活性化を目指して和泉最大の産業団地が設置されました。

### 1 コープ・ラボ たべる\*たいせつミュージアム

「食の安全」「食育」「たべるたいせつ」などについて楽しく見学、学習、体験ができるミュージアムです。

### 2 和泉商工会議所

前身は和泉市商工会で平成6年（1994）4月に設立されました。社会人必須のビジネスマナーやコミュニケーション・スキルを向上させる講座など、いろんなセミナー、イベントが開催されています。

### 3 デリバリーキッチン 至福のランチ

テクノステージ（工業地帯）周辺でランチをやっている店はあまりなく、かつては昼食を食べずに働く労働者もいたといいます。そうした労働環境を改善しようと、2018年8月に和泉市産業振興プラザ南館1階でオープンしたお弁当屋さんです。

### テクノステージ和泉

みかんなどが植えられていた南松尾の山を切り開き、総面積は約103.4ha（甲子園球場約26個分）もあります。数多くの企業が立地し、大阪府下の郊外型産業団地として有数の規模を誇ります。

### テクノステージ和泉と久保恒彦氏

久保恒彦氏（1929～2024）は明治時代から約百年の歴史を有し、泉州を代表する綿業の名門企業「久保惣」の5代目で、初代創業者・久保惣太郎氏の孫です。トヨタカローラ南海、トヨタカローラ新大阪両グループの代表などを務めましたが、昭和52年（1977）に久保惣を廃業すると久保惣コレクション（主に東洋古美術で国宝2件、重要文化財29件を含む。所蔵総数は約11000点）を土地、建物、基金とともに和泉市に寄贈し、「和泉市久保惣記念美術館」を開設しました。また昭和62年（1987）に和泉市から要請を受けて「株式会社いずみコスモポリス」の代表取締役に就任すると幅広い人脈を駆使してテクノステージ和泉に数多くの優良企業を誘致しました。その功績が認められて平成18年（2006）、和泉市名誉市民の称号が贈られています。

### 4 コスモ中央公園

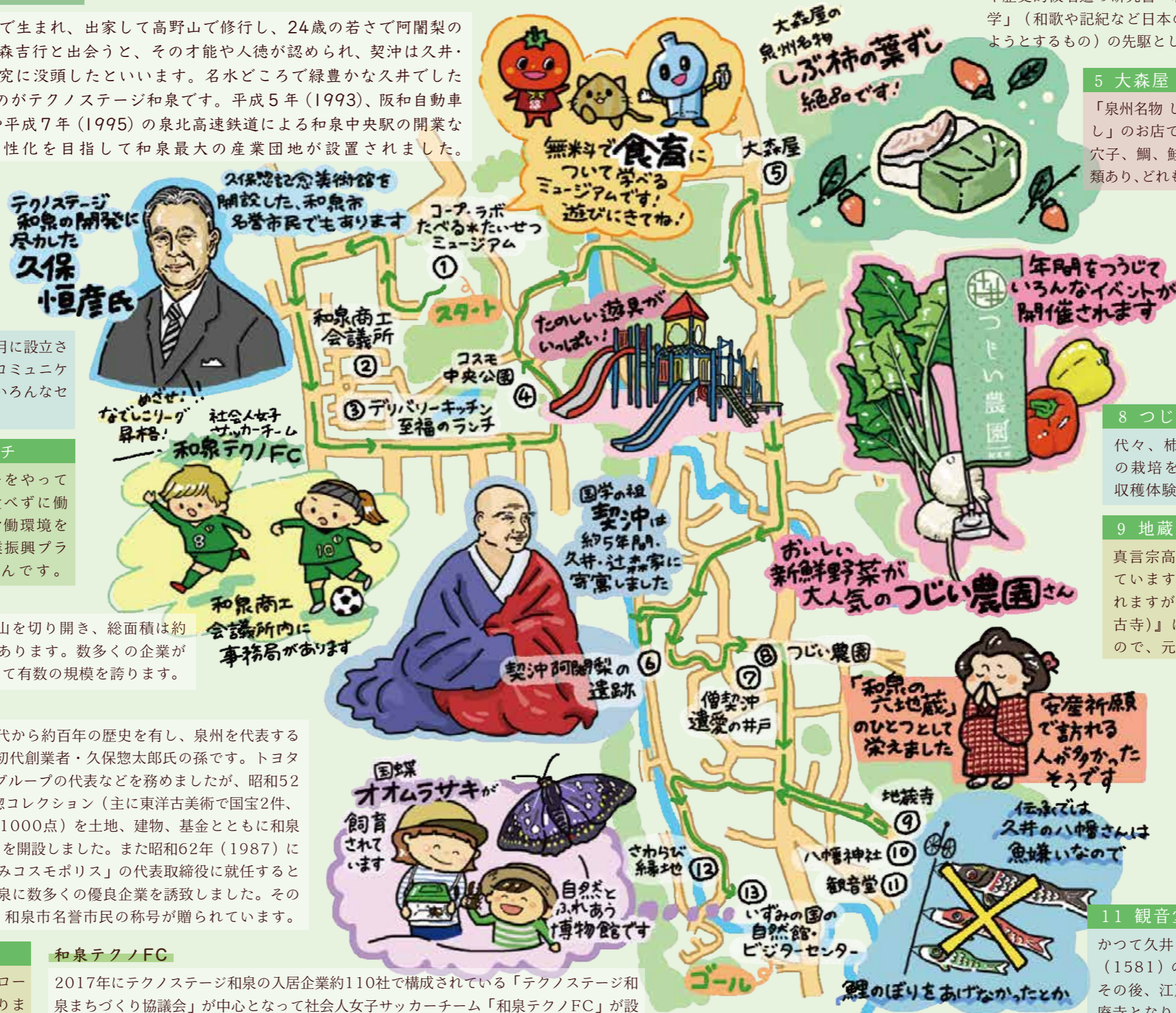
テクノステージ和泉内にあり、ジョギングロード、グラウンド、バスケットコートなどがあります。芝生広場やターザンロープ、複合遊具などもあるので小さなお子さんでも楽しめます。

### 和泉テクノFC

2017年にテクノステージ和泉の入居企業約110社で構成されている「テクノステージ和泉まちづくり協議会」が中心となって社会人女子サッカーチーム「和泉テクノFC」が設立されました。現在は関西女子サッカーリーグに参戦していますが、アマチュアトップリーグ「なでしこリーグ」昇格を目指しています。和泉商工会議所内に事務局があります。

まち歩きマップ「和泉そぞろ」は「いずみ市民大学」の「観光おもてなし学科」の資料として作成されました。掲載されている情報は令和7年（2025）2月現在のものです。和泉のまち歩きの際にご利用ください。

プロデュース | 陸奥賢【観光家/大阪まち歩き大学学長】 コーディネーター | 宝楽陸奥【NPO法人SEIN/コミュニティLab所長】 イラスト&マップ制作 | 田中保帆 協力 | いずみ市民大学観光おもてなし学科受講生（はっとりまさよ/町田文平/ちょうさん/むらかみあきら/はるパンダ/クワハラ/るんるん）



### 久井町と契沖

契沖は約5年（1670～1675）ほど久井・辻森家に寄寓しました。その後、万町村（現・万町）の伏屋家に招かれて養寿庵に寄寓し、伏屋家が所蔵する和漢書の研究に打ち込んだといいます。のちに契沖は『万葉集』の注釈書『万葉代匠記』や歴史的仮名遣の研究書『和字正濫鈔』などを書きますが、それらの著書が「国学」（和歌や記紀など日本の古典を研究し、日本古来の精神や思想を明らかにしようとするもの）の先駆として高く評価され、契沖は「国学の祖」と呼ばれます。

### 5 大森屋

「泉州名物 しぶ柿の葉ずし」のお店です。海老、穴子、鯛、鮭、鯖と5種類あり、どれも絶品です。

### 6 契沖阿闍梨の遺跡

契沖が滞在した小庵跡です。かつて松尾川沿いに寓居があったと伝わっています。昭和28年（1953）に久井村民の手で石碑が建立されました。

### 7 僧契沖遺愛の井戸

契沖は久井滞在中に「苔つたふ 山の滴のいはね水 濁る世しらで 独りいづらん」という清水を詠んだ歌があり、この井戸は契沖が褒め讃えたものと伝えられ、香水のような水が湧いていたといいます。令和4年度（2022）に和泉市によって看板が設置されました。また久井の集落には契沖の井戸と伝えられる井戸がもう1か所（私有地内）あります。

### 8 つじい農園

代々、柿・みかんの栽培をしていましたが7代目から野菜の栽培をはじめました。一般の方も参加できる農業体験、収穫体験、バーベキュー、マルシェなどを実施しています。

### 9 地蔵寺

真言宗高野山金剛峯寺の末寺で本尊は延命地蔵菩薩を安置しています。隣接する八幡神社の神宮寺として開創したと思われませんが詳細は不明です。『和泉市PTA文庫 第3集（市内の古寺）』によると本堂の裏山を昔から「堂山」と呼んでいるので、元はそちらに地蔵堂があったのでは？と推測されています。古くは「和泉の六地蔵」のお寺として栄え、安産に効くので「久井村では難産したものがない」という伝承がありました。また境内に「契沖ゆかりの地」と刻まれた石碑があります。

### 10 八幡神社

ご祭神は応神天皇です。十人衆が毎月1日に神事を執り行っています。言い伝えでは久井町の神さまは魚を嫌っているの、町内では端午の節句に鯉のぼりを揚げる家がないといいます。

### 11 観音堂（真言律宗嶋山松林寺）

かつて久井には松林寺という一大寺院がありましたが、天正9年（1581）の織田信長の松尾寺攻めで焼失したといわれています。その後、江戸時代に再建しましたが、明治の神仏分離令によって廃寺となりました。ご本尊の観音さまは地蔵寺の庫裡西側の畑に移され、明治41年（1908）に八幡神社、昭和28年（1953）に現在の観音堂に移されました。久井の観音講がお守りしています。

### 13 いずみの国の自然館・ビジターセンター

特定非営利活動法人「いずみの国の自然館クラブ」が運営しています。2024年4月に自然を守り、子どもたちが自然と触れ合える博物館としてオープンしました。国蝶オオムラサキの飼育を行ったり、毎月第3日曜に自然観察会があり、標本作成など様々なイベントが開催されています。

### 12 さわらび緑地

松尾川沿いにある自然豊かな緑地です。初夏にはホテルも飛び交うといっています。